



見守り、見守られる環境を充実させる“カギ”

# 温かく見守る 認知症サポーター

さまざまな原因によって脳の神経細胞が破壊され、日常生活がうまく送れない状態となる認知症。糖尿病などの持病とも深く関係し、生活習慣を見直すことで予防や回復につながります。

認知症の人やその家族が住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるように、多久市では医療や認知症予防、福祉といった多角的な視点で支援しています。「認知症ケアパス」には、認知症の状態や進行度によって、対応方法や受けられる支援などを分かりやすく記載。8月から実施している「見守り支援シール」には、伝言板サイトへのQRコードを印刷しており、発見者が読み込むことで家族などの登録者に連絡がいく

## 多 久 市 で 一 体 的 に 支 援 す る



▲地域包括支援課の認知症キャラバン・メイト

ほか、伝言板内でやり取りすることもできます。また、平成27年から現在までに郵便局や宅配業者、コンビニエンスストアなど、7つの事業者と「高齢者見守り協定」を締結。これによって、日常生活の中で発症の早期発見と支援につなげることができています。



▲見守り支援シール



▲認知症ケアパス

## 暮 ら し の 中 で 見 守 り 、 見 守 ら れ

支援の一環として行っている認知症サポーター養成講座は、市内の義務教育学校や多久高校、多久市商工会、社会福祉協議会などで開催し、昨年までに2,063人のサポーターが誕生

しました。

講座では、開講資格を持つ「認知症キャラバン・メイト」が認知症の症状や対応方法を講義した後、受講者に合わせて読み聞かせやビデオ視聴、グループワークなどの学びを深める取り組みを実施。症状が進んでも嬉しい、悲しいといった感情が残ることや認知症の人の言動を否定しないようにするなど、特徴的な症状や適切な接し方を学びます。

多久市で暮らしているからこその、日常生活での「見守り」。その担い手として活躍する認知症サポーターに、みなさんもなってみませんか？

## 認知症サポーターの証「オレンジリング」

